

# 降誕節第6主日

<b>朝第1礼拝</b> 9:00~10:10
<b>朝第2礼拝</b> 10:30~12:00
〈神の招き〉
前奏 ①いざ主を賛美せよ M. プレトリウス ②主よ、我らのみ言葉のもとに保ち ベーム
招きの詞 詩編46:9~12
交読詩編 84:1~13
讃美歌 8
〈神の言葉〉
聖書 ホセア書6:4~6 (旧約 聖書協会共同訳 1389頁) マルコによる福音書11:12~22 (新約 聖書協会共同訳 83頁)
祈禱 (新約 聖書協会共同訳 83頁)
讃美歌① 51
奉唱② 472
説教 「神を信じる時」 熊江秀一牧師
祈禱
黙想
讃美歌 458
聖餐
讃美歌 81
〈神への応答〉
信仰告白 日本基督教団信仰告白
献金
主の祈り
宣教報告②
頌栄 27
派遣と祝福
後奏 ①神をのみ愛する人は キッテル ②我ら皆ひとりの神を信ず ツァッハウ
宣教報告①

**今週の御言葉**  
(マルコによる福音書 11:21~22) ところで、ペトロは思い出してイエスに言った。「先生、御覧ください。あなたが呪われたいちじくの木が、枯れています。」イエスは言われた。「神を信じなさい。」

<b>夕礼拝</b> 18:00~19:10
〈神の招き〉
前奏
招きの詞 詩編46:9~12
交読詩編 84:1~13
讃美歌 216
〈神の言葉〉
聖書 創世記28:10~22 (旧約 聖書協会共同訳 42頁) マタイによる福音書21:12~16 (新約 聖書協会共同訳 39頁)
祈禱 (新約 聖書協会共同訳 39頁)
讃美歌 99
説教 「私の家は祈りの家」 甲賀正彦牧師
祈禱
黙想
讃美歌 464
聖餐
讃美歌 81
〈神への応答〉
信仰告白 日本基督教団信仰告白
献金
主の祈り
宣教報告
頌栄 27
派遣と祝福
後奏
<b>次週の礼拝</b> (2月9日)
① 9:00、② 10:30 説教「信仰と祈りの力」熊江秀一牧師 イザヤ書5:1~8、マルコによる福音書11:20~33 交読詩編86:11~13 讃美歌7、53、458、27
☾ 18:00 説教「たとえを用いて」 甲賀正彦牧師 イザヤ書6:8~12、マタイによる福音書13:10~17 交読詩編86:11~13 讃美歌215、195、491、27

\*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。\*は祈禱当番の方。\*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☾は夕礼拝。

**■今週の祈禱課題■** ひとり祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に 2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に  
3. 地域会の為に 4. 長老予備選挙の為に 5. 教職の為に 6. 教会学校の働きの為に  
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に 8. 病気の兄弟の為に

**\*関東教区お祈りカレンダー** 三芳教会 所沢武蔵野教会 所沢みくに教会

◇先週の説教より「これからを生きる、神と」エレミヤ書29:11、ローマの信徒への手紙8:26~30 長村亮介牧師(鴻巣教会)

NHKの「ドキュメント72時間」という番組があります。ある回では、タクシードライバー歴30年以上の男性が過去の浮気が原因で離婚し、今も後悔と孤独を感じて生きている姿が描かれています。また、隅田川沿いの遊歩道で取材した70歳前後の男性は、亡くなった妻にもっと優しくすべきだったと悔やんでいました。「後悔」は辛いことだけれども、その前よりも後の方が人間として良くなるのではないかとわたしには思われました。

聖書に放蕩息子のたとえがあります。放蕩息子が全てを失った後に父親の元に戻り、許されて新たな人生を始める話です。この話は、過ちから取り返しのつかない大きなものを失い、人生の危機に遭遇する時、わたしたちには人間として真実に成長する機会があることを思わされます。

しかし、神さまの愛とご計画は、神さまが私たちの苦しみを共にして、成長と希望をもたらしてくださることではないかと思われるのです。神の愛がどれほど強いものであるか使徒パウ

ロの「ローマの信徒への手紙8章26~30節」から窺えます。

あるいはアブラハムとモーセについても、神がまず彼らを選び導いて、その使命と共に人間的に成長させておられることを思います。これらのことは、神さまのご計画に従って生きることが私たちにとっていかに重要であることを示しています。

そして、エレミヤは神の計画が私たちに希望と未来を与えるものであることを語り、わたしたちが神さまの愛と導きに支えられ、未来に向かって生きることの大切さを述べています。神さまが私たちを愛し、導いてくださることに気づくことは、人生の苦しみや後悔を乗り越えて成長するための力となります。そして、神の愛を知ることが、私たちの「これから」を生きる希望となるのです。神の深い愛に支えられ、「これから」を神さまと共に歩むことができます。